

親子二世帯同居家族の住まい方

その3. 各生活空間の共用度の現状と希望

日本女大家政 ○通山千賀子 樋口真基子 沖田富美子

目的 その2につづき本報では、玄関、居間、食堂、台所、浴室、便所、洗面所の7空間について 親子世帯の共用志向の違いを現状と希望との関連から検討する。

調査方法及び対象 その1に準じる。但し今回は2回の調査を総合した結果を分析する。

結果 1.親子世帯の生活空間の分離度の現状—各世帯の生活空間全体を上下あるいは左右に分離している世帯が多く(45.9% 16.4%), 分離が明確でない世帯は32.0%である。このように物理的に分離している住戸が多いにもかかわらず その1で示したように現実には生活空間を共用している傾向が強い。2.今後の二世帯住宅計画における共用希望度—①親子世帯ともに専用希望の多い空間は便所→居間→洗面所の順であり 共用希望率の高い空間は玄関→浴室である。②各生活空間の専用希望率は親世帯より一般に子世帯の方が高いしかし、居間のみ親世帯の専用希望率が若干高くなっている。③各生活空間の共用希望率は親子世帯ともにほぼ同じ割合を示しているが、食堂・台所・浴室については親世帯の共用希望が多くなっており、親子世帯による意識の違いがみられる。3.各生活空間の現状と希望との関連—①玄関・食堂・台所・浴室を現在共用している世帯では今後も共用を希望している。しかし 居間・便所については専用を希望するものが多い。②現在台所を共用している世帯で、今後も共用を希望するのは親世帯の方に多い。子世帯では共用希望も多いが専用希望の割合も多くなっている。③洗面所を共用している世帯の今後の希望についてははっきりした傾向はみられない。④現在各生活空間が専用化されている世帯の希望としては 当然専用希望が多いが 玄関のみ親子世帯ともに共用を希望しているものが多い。